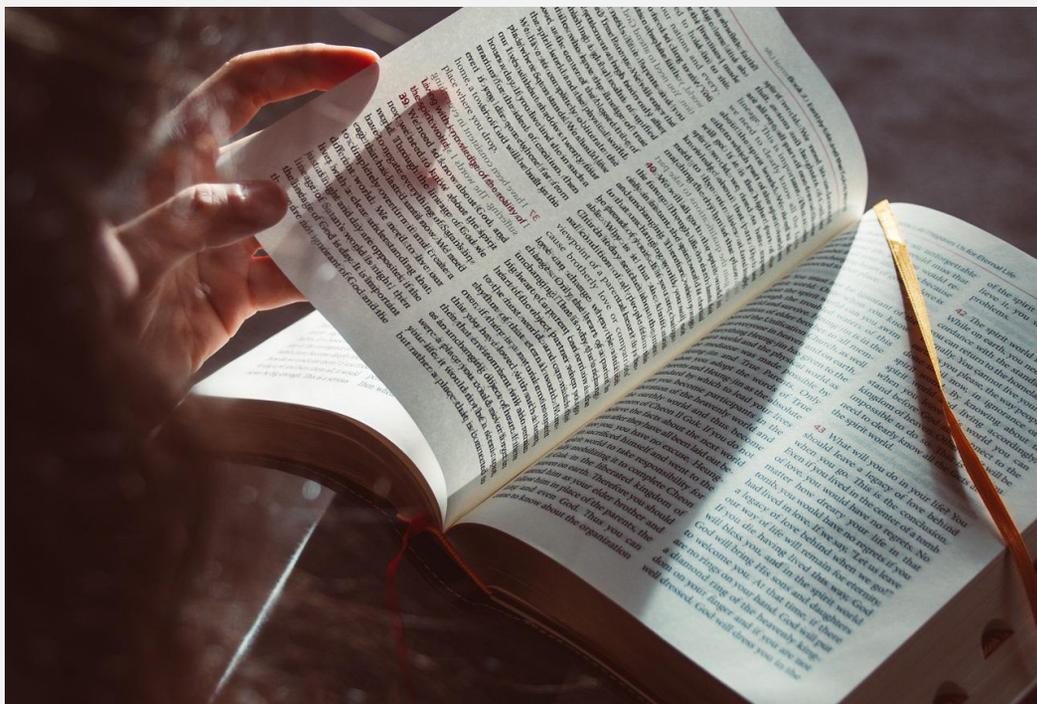


2023年度

# 君に薦める一冊の本



## 「君に薦める一冊の本」とは

先生方から学生の皆さんへの推薦図書です。先生方の心の琴線に触れた図書や学生生活を送る上で役立つ図書、教養を深める図書など今年度も多数の図書を推薦していただきました。

勉強やクラブ・サークル活動など、忙しい学生生活の合間にぜひ手に取って読んでみてください。

皆さんの豊かな人格形成に役立つことを願っています。

ご推薦いただいた先生

---

都市デザイン工学科	小川 芳也 先生
電気電子システム工学科	藤井 彰彦 先生
電気電子システム工学科	神野 崇馬 先生
電子情報システム工学科	廣芝 伸哉 先生
電子情報システム工学科	金城 良太 先生
応用化学科	村田 理尚 先生
環境工学科	日下部武敏 先生
生命工学科	外波 弘之 先生
総合人間学系教室	辻本 智子 先生
総合人間学系教室	尾田 知子 先生
総合人間学系教室	瀧川 宏樹 先生
総合人間学系教室	西山由理花 先生
空間デザイン学科	村尾 純子 先生
データサイエンス学科	濱田 悦生 先生
情報システム学科	久保田 匠 先生
情報メディア学科	田岡 育恵 先生

『ぱぴろにくす』にご寄稿いただいた先生

---

121号	
ロボット工学科	野田 哲男 先生
122号	
建築学科	本田 昌昭 先生

## 都市デザイン工学科 小川 芳也 先生



### 『生命体「黄河」の再生』

李国英・芦田和男・澤井健二・角哲也編著／京都大学学術出版会

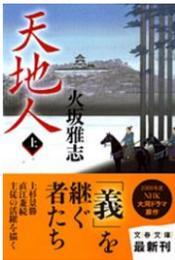
地球という自然豊かな惑星で、人間が豊かな生活をする事ができるのはいつまでか？近年、過去に経験したことが無い大雨により世界中で洪水被害が、また、雨が降らない水不足による被害に悩まされています。

人間に必須の水、その源である河川という自然公物と人間との知恵比べについて、日本より長い歴史がある中国の「黄河」での取組みを紹介しているこの図書は、「技術の進化」を進めていくうえで必要な視点を教えてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉517.222||S 12300831 〈梅田分館〉517.222||S 72300158 〈枚方分館〉517.222||S 82300280

## 都市デザイン工学科 小川 芳也 先生



### 『天地人(上・下)』

火坂雅志著／文春文庫

NHKの大河ドラマにもなったこの作品は、戦国時代を生き抜いた上杉家家臣である直江兼続が描かれています。戦国時代において、目上の人物に意見することは死に繋がることもあるなかで、上杉家のために意見をぶつける勇敢さと他者を思いやる優しさを併せ持った直江兼続。

これから色々なことを経験して社会という海洋へ旅立っていく学生の皆さん。身に着けた技術力を地球環境のために発揮して欲しいと願い、この図書を推薦します。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉上:913.6||H||上 91231173 下:913.6||H||下 91231050  
〈梅田分館〉上:913.6||H||上 97230290 下:913.6||H||下 97230289  
〈枚方分館〉上:080||B 98230637 下:080||B 98230638

## 電気電子システム工学科 藤井 彰彦 先生



### 『捨てる力』

羽生善治著/PHP研究所

将棋のプロ棋士で最も知名度のある羽生さんの著書です。斬新な書名ですが、基礎を大事にしつつ、新たな道を切り開くための思考プロセスが書かれており、将棋を指さなくとも共感できる内容です。研究生活、学術活動にも大いに通じるところがあり、また年代に関係なく参考になると思います。蔵書にはないようですので、お加えいただけましたら幸いです。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉796||H 91230556 〈梅田分館〉796||H 97230133 〈枚方分館〉080||P 98230230

## 電気電子システム工学科 神野 崇馬 先生

STARTUPS  
101

### 『スタートアップ入門』

長谷川克也著/東京大学出版会



「スタートアップ」や「アントレプレナー」という言葉を聞いたことはありますか？日本語では「ベンチャー企業」や「起業家」などと訳されています。起業はスティーブ・ジョブズのような天才がすると思いがちですが、そんなことはありません。一番大事なことは自分がやりたいという熱い気持ちです。誰でもアントレプレナーになる可能性があります。

この本では、スタートアップやアントレプレナーとは何か？から始まり、世界中のアントレプレナーが実践している価値創造の考え方などを知ることができます。彼らは、顧客候補がもつ課題が何で、何が最善の解決策か、それによってどんな価値や意義があるのか常に行動しながら探索しています。このような探索のアプローチは起業だけでなく、普段のみなさんの大学生活や日常生活、将来のあらゆる場面で活かすことができます。みなさんが熱量を持ってやりたいことを見つけるための行動の一助になってくれるはずです。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉335||H 91230558 〈梅田分館〉335||H 97230135 〈枚方分館〉335||H 98230232

## 電子情報システム工学科 廣芝 伸哉 先生



### 『八月の銀の雪』

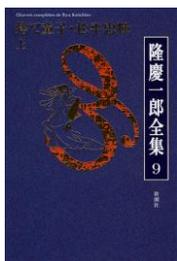
伊与原新著／新潮社

出版社の紹介に「科学の揺るぎない真実が、傷ついた心に希望の灯りをともし全5篇」と書かれていて思わず書店で手に取った1冊でした。表題作は就活中の工学部の大学生の傷ついた心と外国人留学生の交流が描かれており、工学部らしい大学生活と科学（サイエンス）な非日常が若い人たちに自信を与える一作だと思います。作者の伊予原さんは元大学教員ということで、理系大学生に読んでほしいという思いがにじみ出てくる短編集です。どれもちょっとしたスキマ時間で読める短編ばかりです。

請求記号・資料ID

[〈大宮本館〉913.6||I 91201420](#) [〈梅田分館〉913.6||I 97230094](#) [〈枚方分館〉913.6||I 98201057](#)

## 電子情報システム工学科 金城 良太 先生



### 『隆慶一郎全集第九巻～第十一巻

捨て童子・松平忠輝（上・中・下）』隆慶一郎著／新潮社

人間の想像力のすばらしさを感じる作品。トールキンが、ヨーロッパの伝承から中つ国の「指輪物語」を空想したように、劉慈欣が、宇宙人は居るのかという疑問に「三体」で一つの解を示したように、隆慶一郎は、彼の一連の作品群で、新しい日本史を紡ぎだしている。隆慶一郎ワールドの、最も一般的な作品が原哲夫の漫画「花の慶次」であり、集大成とも言えるのがこの作品であろう。

請求記号・資料ID

[〈大宮本館〉上:913.6||R||9 91230887](#) [中:913.6||R||10 91230888](#) [下:913.6||R||11 91230889](#)  
[〈梅田分館〉上:913.6||R||9 97230238](#) [中:913.6||R||10 97230239](#) [下:913.6||R||11 97230240](#)  
[〈枚方分館〉上:913.6||R||9 98240001](#) [中:913.6||R||10 98240002](#) [下:913.6||R||11 98240003](#)

## 応用化学科 村田 理尚 先生



### 『国家の品格』 藤原正彦著／新潮新書

数年前、九州大学の知人の先生が「国家の品格」を読んで感動したと話されました。実際に読んでみると、人生の励みになることにいくつも気づかされました。例えば、卑怯なことをしない、虫の鳴き声を美しいと感じて楽しむ心、（英語より）国語の重要性など、今でも胸に残っています。2023年度は研究室で指導している大学院生2名が海外へ研究留学をします。「国家の品格」をプレゼントすると、大変感謝してくれました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉304||F 91060178 〈梅田分館〉304||F 97230102 〈枚方分館〉081||S||141 91051637

## 環境工学科 日下部 武敏 先生



### 『環境マインドで未来を拓け いのちをまもる工学の60年』 「環境工学への誘い」刊行委員会編／京都大学学術出版会

21世紀は「環境の世紀」です。人類や生態系は、地域レベルから地球規模の様々な環境問題に直面しています。これらの正しい理解と解決には、工学的・技術的な素養にとどまらず、他の自然科学（理学、医学、農学、薬学など）や人文・社会科学（心理学、法学、行政学、社会学など）の英知を総動員し、協働して立ち向かわなければなりません。本書を手に取り、「環境工学」の魅力の一端に触れ、少しでも共感していただければ幸いです。

〈大宮本館〉519||K 91230368 〈梅田分館〉519||K 97230095 〈枚方分館〉519||K 98230144

## 生命工学科 外波 弘之 先生



### 『銃・病原菌・鉄 (上・下)』

ジャレド・ダイヤモンド著 倉骨彰訳／草思社文庫

アメリカ原住民がヨーロッパ人に征服されたのはなぜか。ヨーロッパ人が銃を持っていたから？戦術に優れていたから？アメリカ原住民が遺伝的に劣っていたから？さらには現在の先進国と発展途上国との違いは何が原因なのか？本質的な答えを科学的な証拠をもとに導いた本です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉上:204||D||上 91150867 下:204||D||下 91150868  
〈梅田分館〉上:204||D||上 97230091 下:204||D||下 97230092  
〈枚方分館〉上:080||S 98161844 下:080||S 98161845

## 生命工学科 外波 弘之 先生



### 『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン著 青木薫訳／新潮文庫

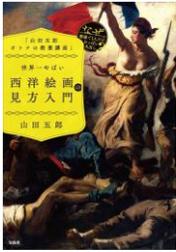
簡単そうに見える数学の証明問題、フェルマーの遺した「最終定理」に挑む天才数学者たちの苦悩、熱意そして絶望が伝わってきます。工学分野の研究にも通じるところがあるように思います。

著者のサイモン・シンさんはジャーナリストで、難しい数学の話が分からなくても300年以上にわたる壮大なストーリーを楽しめる書き方になっています。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉412.2||S 91150812 〈梅田分館〉412.2||S 97230093 〈枚方分館〉080||S 98160878

## 総合人間学系教室 辻本 智子 先生



### 『山田五郎 オトナの教養講座』

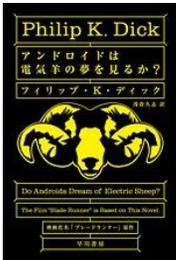
世界一やばい西洋絵画の見方入門』山田五郎著／宝島社

昔からTVでちょくちょくお見かけしていた元雑誌編集者の山田五郎さん。今や美術系YouTuberとしてチャンネル登録者数は50万人目前！この本は五郎さんのチャンネル『山田五郎 オトナの教養講座』の公式BOOK。各章には対応する動画のQRコードがあるので、ぜひ動画と合わせて楽しんでください。幅広い知識と豊かな人間性を感じさせるだけでなく、とにかく話がオモシロイ。絵画の好きな方、必読・必視聴です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉723||Y 91221075 〈梅田分館〉723||Y 97230088 〈枚方分館〉723||Y 98230141

## 総合人間学系教室 尾田 知子 先生



### 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』

フィリップ・K・ディック著 浅倉久志訳／早川書房

機械は生命を持ちうるか--この根源的な問いについて、本書を読んで考えてみませんか。

1968年に発表された本書ですが、今から55年も前に書かれたとはとても思えないほど、現代社会を予言しているかのような内容となっています。人間型ロボットや模造動物が登場する本作の舞台は第三次世界大戦後で、地球は放射性物質まみれ、火星は植民地化されています。面白いのは、こうした一見するとあり得ない「ぶっ飛んだ」小説世界に、空飛ぶ車「ホバー・カー」や、ビデオ画面付き電話回線の「映話」など、現代では実用化に至っている工業系アイテムが多数登場することです。したがって本書を読めば、当たり前のようにアンドロイドと共存し、模造動物を飼うことも、近い将来現実のものになるのでは・・・と、背筋がゾクッとすること必至です。

本書は『ブレードランナー』というタイトルで映画化もされています。小説版（本書）と映画版を比較することも面白そうですね。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉933.7||D 91230354 〈梅田分館〉933.7||D 97230090 〈枚方分館〉080||H 98230139

## 総合人間学系教室 瀧川 宏樹 先生



### 『八つ墓村 金田一耕助ファイル1』 横溝正史著／角川文庫

1949～51年にかけて連載された、言わずと知れた名探偵の金田一耕助が登場するシリーズの代表作の一つです。横溝正史の作品は、ドロドロした人間関係や、グロイ描写がなされる点が特徴です。作者自身、腹違い・種違いの兄弟姉妹という複雑な環境で育っているためか、人間関係に思い悩む登場人物たちの姿の描き方が秀逸だと個人的には感じています。人間関係の悩みというのは、いつの時代でも場所でも一緒です。横溝正史のオドロオドロしい世界観で描かれる人間たちにもぜひ触れてみて下さい。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉913.6||Y 91240035 〈梅田分館〉913.6||Y 97230265 〈枚方分館〉080||K 98230571

## 総合人間学系教室 西山 由理花 先生

はじめての  
西洋ジェンダー史  
家族史からグローバル・ヒストリーまで  
弓削尚子 Yoko Yano



### 『はじめての西洋ジェンダー史 家族史からグローバル・ヒストリーまで』 弓削尚子著／山川出版社

「理想の」家族や「男女」の違いは、いつ、どのように多くの人の共通理解になっていったのでしょうか。本書は、私たちの多くがもつ家族や男女のあり方に対するイメージが、時代のなかで「つくられた」ものであることを教えてくれます。

「ジェンダー」と聞くと、「女性」を思い浮かべる人が多くはありませんか？それは間違いです。本書では、「男らしさ」がつけられていく過程も明らかにされています。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉367.23||Y 91231053 〈梅田分館〉367.23||Y 97230296 〈枚方分館〉367.23||Y 98230653

## 空間デザイン学科 村尾 純子 先生



### 『縄文の神秘』

梅原猛 渡辺誠著／学研M文庫

芸術家の岡本太郎氏が縄文文化に惹かれ、そこに日本人の芸術のルーツを求めたことはご存じだろうか。私は、美術館で岡本太郎の作品を見て、何となく画集を買って家に帰り、開いて眺めていると、彼の作品から何とも言えないエネルギーが立ち上るのを感じた。描かれている絵の形のせい、色のせい。形、色はエネルギーを発するから。でもおそらくそれは彼の作品の根底にある「根源」からのエネルギーを感じたのであり、それがまさに日本人のルーツである縄文文化の源と同じものだったからかもしれない。哲学者梅原猛氏によるこの書は、縄文土器が単なる土器ではなく、芸術品と言える理由や、その呪術性から見える死生観などを論じ、私たちが宇宙と自然の循環の中で生かされている存在であるということを再確認させてくれる。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉708||N||1 18910399(所蔵は旧版です)

## データサイエンス学科 濱田 悦生 先生



### 『どうする財源 貨幣論で読み解く税と財政の仕組み』

中野剛志著／祥伝社新書

貨幣とは何か？今まで思っていたイメージとは異なる貨幣の姿が見えてくると、日本経済の現在と将来、正しい経済政策はどうあるべきか、等が自然と分かるように書かれています。これを読むと、ニュースなどで「国民の借金がGDPの2倍以上になったから、日本経済が危ない。」と言われても、「ああ、そうですか。それって国民の借金ではなく、政府の円建ての借金ですよ。で、何か問題でも？」という冷静な判断が出来るようになるので、メディアリテラシーの涵養にもなるでしょう。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉342.1||N 91230355 〈梅田分館〉342.1||N 97230089 〈枚方分館〉081||S||676 98230140

## 情報システム学科 久保田 匠 先生



『「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考』  
末永幸歩著／ダイヤモンド社

19世紀のある日、世界初のカメラ（写真機）が誕生した。その日を限りに世界の絵画は死んだ——とはならず、アートはむしろカメラの登場によってこそ昇華した。その背景には知識や技術だけでなく、興味と探求の思考（＝アート思考）があった。カメラと画家の関係は近い将来におけるAIと人間の関係に似ているかもしれない。現代に生きる我々はこれからどう生きれば良いだろうか。アート思考はそのような問いにヒントを与えるだろう。

「何が正解か？」ではない。「自分なりのものの見方」を追究するのである。

請求記号・資料ID

[〈大宮本館〉704](#)||S 91230557 [〈梅田分館〉704](#)||S 97230134 [〈枚方分館〉704](#)||S 98201227

## 情報メディア学科 田岡 育恵 先生



『煩惱フリーの働き方。』  
小池龍之介著／角川文庫

誰かに対して「嫌な人だ」と不快に思うときはありますか？著者は、そのようなときは、相手の話し方や態度を「情報」として受け取った後、脳内でその情報に不快感のスパイスを加えて「ああイヤだ、ああイヤだ」と編集してしまっているのだと言います。このスパイスが自分の中に溜まっている煩惱エネルギーです。この煩惱エネルギーにはどう対処したらよいでしょう？タイトルに「働き方」とありますが、皆さんが学園生活を送る上でも役に立つヒントがいっぱい含まれている本だと思います。

請求記号・資料ID

[〈大宮本館〉498.8](#)||K 91230353 [〈梅田分館〉498.8](#)||K 97230105 [〈枚方分館〉080](#)||K 98230152

# ロボット工学科 野田 哲男 先生

ロボット工学ハンドブック

第3版

日本ロボット学会編



コロナ社

## 『ロボット工学ハンドブック（第3版）』

日本ロボット学会編／コロナ社

私の読書スタイルは“濫読”である。よって一冊だけ紹介せよといわれると非常に困る。思い返せば少年時代から、とにかくなんでも読んで、自分の家に子供が読めるものがなくなったら、遊びに行った友人の部屋の本をつい読み始めてしまい、友人たちが外遊びに出ても一人そのまま日が落ちて読み続けているところを家人に発見され驚かれたものである。やがて小学生向けの学習百科事典を端から読み始め、ところどころ飛ばしながらも一応読破に至る。たしか全12巻で、第6巻 動物・植物、第7巻 気象・天文といったテーマ別の編纂であった。これらの経験を通じて自身の読書スタイルが確立していったようである。

このような私が一冊を薦めるとしたら？ 勘の良い諸君はすでに伏線を回収しはじめているに違いない。つまりは分厚い博物的専門書になる。もったいぶらずに紹介しよう。

【日本ロボット学会編：“ロボット工学ハンドブック第3版”、コロナ社、2023】

しかしロボット工学の本を薦めることが目的ではない。説明を聞いてほしい。同書は約260名の著者により数年をかけた改訂の構想・執筆・編集作業が行われ、ようやく前刊から18年ぶりに日の目を見た。今回の改訂で執筆陣はそれまでの「ロボット工学」ではなく「ロボット学」の体系化を試みた。そのため自然科学の側面からの論述を書き換えたことはもちろん、哲学・文学・文化学・宗教学といった人文科学の側面、法学・経済学・経営学・社会学といった社会科学の側面からの論述を書き換え多くのことを書き加えていった。当然分厚くB5判1,086頁、41,800円もする。その分これ一冊で疑似濫読できる。

この改訂はロボットという工学部が取り扱う人工物の一つさえを理解し活用するために必要な学問体系が、2020年代に入って自然・人文・社会の各分野にひろがっていることを示している。ひらたい言い方をすれば、自分の専門だけを極めていれば飯が喰える時代ではないということになる。よりストレートに言えば自分の専門を極めるとともに多くの分野をも浅深はともかく同時に手中に収めよ、ということである。そのためには“濫読”が必要になる。しかもここ数年で紙の書物だけでなく、WWWサイト、電子書籍、動画サイトなど、何を読んで何を読まないかを選択する困難さが高まっている。私の学生の頃は図書館や大きな書店に行けばいいだけだった。大変な時

代になってしまったが逃れることはできない。

もう一つ、回収していない伏線がある。それは一心不乱に“長時間集中し続ける”ということで、ものごとを広くあるいは深く理解するためには必至の所作である。分厚い本、難解な本を紹介する理由の2つめがここにある。みなさん短い動画は好きですか？講義動画は2倍速再生ですか？しかし学問はそれでは理解できない。学問を理解したということは学習時とは異なる場面で理論の本質を応用できるということである。そして学問は複雑で理論の本質にたどり着くまでには想像以上の長い時間がかかる。

さて巷で流行りのChatGPTに同書の悪いところを聞いてみた。「この本の悪いところは書籍としてはかなり大きく重たいため、持ち運びがしにくいことです」「この本は専門家向けであり、初心者には向いていないという指摘があります」これらが私が同書を薦めた理由であることを汲み取って“長時間集中”し“濫読”し博覧強記を目指していただきたい。

最後に、私の濫読習慣は今どうなっているのか。本の話題が出たらその場でポチることも多く、新しい立ち回り先では海外含め必ず本屋や図書館を探す、ミュージアムショップでは書物を漁る…ということを報告しつつ筆を擱く。

※図書館報『ぱびろにくす』121号にご寄稿いただきました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉548.3||R 12200993 〈梅田分館〉548.3||R 72300010 〈枚方分館〉R548.3||R 82200579

# 建築学科 本田 昌昭 先生

千葉雅也

勉強の哲学  
来たるべきバカのために  
増補版

## 『勉強の哲学 来たるべきバカのために 増補版』

千葉雅也著／文藝文庫

勉強とは、バカな私が利口になるためのものであるはずなのですが、この本では「勉強とは自己破壊である」と何やら物騒なことが書かれています。

著者の千葉雅也さんは、会社や学校といった環境における日々の行動は、他者への対応がスムーズに、深く考えなくてもできるようになっている、と述べています。そして、だからこそできることがあり、できないことがあるというのです。環境における「こうするもんだ」、すなわち環境の「コード」の中を無意識的に、もしくは意識的に生きているのです。出る杭として打たれることを避け、中毒的に「いいね」を連発しながら。著者は、このような環境の「コード」への「ノリ」の中を生きる人々を保守的な「バカ」と呼び、そのような共感、あるいは同調圧力とも言い換えられる状況から「自由」になることを勧めています。言うまでもなく、勉強するのはこの保守的な「バカ」となるためにではなく、むしろこのように環境に癒着していたそれまでの自分を「破壊」するための勉強の必要性を説くのでした。

この環境の「コード」による「拘束／依存」から自由になるための方法として著者が持ち出すのが、関西人には馴染み深い「ボケとツッコミ」です。本書で「ボケとツッコミ」は、「コード」を転覆する対極的な方法として位置付けられています。ここでの「ツッコミ」とは、議論や思考の前提とされているような「当然のこと」に対して「そうじゃないんじゃない」とちゃぶ台を返すこと、つまり「当然」を疑って批判すること、一方「ボケ」とは、議論の文脈から意図的に逸脱する「ズレた発言」をすることと定義されています。

読書とは、ある時には「ボケとツッコミ」を通じた著者との、さらには、もう一人の私との「掛合的対話」なのではないでしょうか。書かれてあることに「何でやねん」とツッコミ、書き手の意図に対してボケて、連想の連鎖の中で妄想を膨らませたりと。ただし、私のボケやツッコミに本は応えてはくれません。それ故、私のボケには、ツッコんでくれるもう一人の私という「相方」が必要となります。本を読むということにおいて、書かれてあることを理解し、楽しみ、そして学ぶことがその基本にあることは言を俟ちません。しかしそれは必ずしも正確に行われず、読み手の知識や経験等に基づいた解釈が介在することとなります。書かれてあることを鵜呑みにする

のではなく、私ともう一人の「私」との「ボケとツッコミ」を通じて「当たり前」という環境の「コード」から自由となる可能性が開かれるのでした。読書は、私たちを「自由」にしてくれるのです。

「ボケとツッコミ」に終わりはありません。一つの「コード」の転覆は、新たな「コード」の生成、あるいは移行を意味します。それ故私たちの「自由」は、環境の「コード」に回収されることから逃れ続けるところにしか獲得され得ないのです。

目の前の「当たり前」から自由となるための「ボケとツッコミ」、始めてみませんか。

※図書館報『ぱびろにくす』122号にご寄稿いただきました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉002||C 91230555 〈梅田分館〉002||C 97230132 〈枚方分館〉080||B 98230231

ご推薦いただきました教員の皆様、ありがとうございました。  
紹介された図書は、大宮・梅田・枚方キャンパスともに図書館の  
「君に薦める一冊の本」コーナーに展示いたします。





常期学園

みらいを つくる つたえる まもる。

大阪工業大学

OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY